



久々に首都圏を直撃した大型台風4号の影響で、前日まで開催が危ぶまれた第83回金蘭会東京支部総会は、2007年7月15日(日)に文京区椿山荘で開催されました。当日午前中の荒天のため出席を見合わせざるを得ない方が46名いましたが、ご来賓の金蘭会本部会長、大手前高校校長先生を始め176名の方々のご参加を頂き、滞りなく開催することができました。

懇親会のテーマは『大手前今昔物語』。女学校時代から現在の大手前高校までの貴重な写真、8ミリ映像がスクリーンに映されると、参加者は青春時代の自分をセピア色の映像の中に探していました。その他、テーブル対抗クイズや有志による懐かしの歌斉唱等、幹事学年の手作りの趣向で出席者を楽ませてくださいました。

金蘭会東京支部副支部長 奥村弘一郎

金蘭会の各種
行事に参加する
たびに、つい大
手前高在学中の
気分に戻ってし

まうのは、自分だけだろうか。
そう思つて周りを見ると、いつでも参加者の殆どの方が生き生きと輝やいていて、とてもその年令とは思えない顔付である。まさに、

た。これを機に50年卒同級生の名簿も整い、今や金蘭会東京支部で最も会員数の多い学年となっています。総会幹事をさせていただいたことがきっかけで、交流の無かった同級生や先輩、後輩とも出会い、学年としての連帯感も深まってきました。多方面で活躍の素敵な同窓生と交わることでできる恩恵に心から感謝し、今後は学年会の充実にも心を配っていききたいと思っています。

今年も7月の総会、二次会（学年会）での再会を心待ちにしています。そろそろ学年会にもいい名前が欲しいですね。同級生の皆さんいかがでしょうか。

宝くじ山いち
だより

東京支部の地区会として「田園都市線・半蔵門線の会」が4年前に発足しました。ところが、沿線以外、なかには大阪からの参加者もあり、金蘭会関係者は「来るもの拒まず」という方針になりました。そこで、東急田園都市線二子玉川駅近辺で開催することから「二子玉会」と名前を変えました。

昨年は10月15日(日)お昼、玉川高島屋SC内のレストランで16名の参加がありました。その時、昭和9年の卒業アルバムを持ってきていただき、皆で回覧しました。

毎年楽しみにしておられる方、新しくお一人で参加される方双方が学年を越えて違和感なく溶け込めるの

Topics/News/Information

- お詫び
前号の「訃報」欄に誤りがありました。関係者の方々には多大のご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。
- 募集
●三行広告募集
卒業生の、新刊・出版本、講演会・講習会、会展、教室などの有料広告を募集します。
- 原稿募集 Member's Voice コーナーで、テーマ自由の500文字程度の原稿を募集します。
- Member's Topicsでご紹介したい、多方面でご活躍されている支部会員の情報を寄せください。
詳細はホームページまたは総務・森までお問い合わせください。(TEL : 03-3829-1548)

記 後 集 編

支部会報15号をお届けします。今号は、従来の広告掲載のご希望がなく、新しく、会員の皆様にご利用しやすい三行広告を設け、1件掲載しました。次号からは多くの方のご協力ご支援をお願いします。ご意見、ご感想、ご提案、お問い合わせなどお気軽にホームページにお寄せください。

●金蘭会東京支部ホームページ

<http://www4.airnet.ne.jp/t-kinran/>

支部の最新情報がご覧になれます。メールアドレス登録もこちらからお願いします。



初めての男女共学後57年が過ぎて
森田 英代（昭和26年卒）

かつての商社マン、銀行家、大
学教授らも今は職を離れ、また専
業・兼業主婦も時間に余裕が出来
て趣味を生甲斐とする人、健康の
維持・快復、家族の介護につとめ
る人などごく平均的な暮らしをし
ています。

学年会は回り持ちの数人の当番
が趣向をこらした会場選び、とい
つてもなるべく多くの会員が出席
できるように都心のレストランなど
で年一回開き旧交を温めています。

敗戦の年の春に北野中学と大手前
高女に入学した私たちは戦後の混
乱期も終わっていない三年後には
初めての男女共学を経験し、自由
を謳歌しながら学び、かつ遊びま

学年だより

した。学年会は苦楽を共にした時代の思い出語りにも貴重な場ですが最近健康問題から国際情勢まで賑やかに時間のたつのを忘れて語り合っています。

悩み多きお花見の季節がやってきた

横山裕幸（昭和43年卒）

悩み多きお花見の季節がやってきた。いつの頃からだろう同窓生達と頻繁に会うようになったのは、10年くらい前だろう、支部総会の幹事学年ということになり、これは大変ということで再結したのだ。会の名前は「ふたご会」、由来はよく分らないのだが、確かにふたごの兄弟のように、いつも仲が良い。私たちの1年は6月の総会で始まる。お泊まり会と日帰りの会が毎年交互に開かれるが、昨年は残雪の杣池高原を歩いてきた。

総会が終わると、暑氣払いの聲が掛かる、そしてすぐに忘年会、いつも誰かが安くて旨い店を探してくる。忘年会の終わりにはお花見の企画が決まる。ここ数年私が住む多摩センターで開かれている。この時期地元幹事役は悩む、開花日は、お天気は、料理は、ことしも悩み多きお花見の季節がやってきた。

会員数最多の学年会

横尾 絹子（昭和50年卒）

私が初めて総会に出席したのは2年前の第82回総会で、幹事をお引き受けたのがきっかけでした。大阪を離れて24年、親しい友人と時々会うことはありましたが、30名を超す同級生が関東の地で一堂に会したのはこの総会が初めてでした。

「ジュリー・カレンの英国伝統の平ムメドお菓子」河出書房新社刊
(昭和50年卒 徳野千鶴子)



連絡先：竹村 泉（昭和48年卒）
TEL：045-984-6362
Email：426izumi-t@e08.itscom.net

●金蘭会東京支部データ●

■ 会員数	2,716名
女性	1,245 45.8%
男性	1,471 54.2%
■ 卒業年代構成	
～大正15年	17 0.6%
昭和元～10年	95 3.5%
昭和11～20年	264 9.7%
昭和21～30年	338 12.4%
昭和31～40年	678 25.0%
昭和41～50年	806 29.7%
昭和51～63年	420 15.5%
平成元年～	95 3.5%
教職員	3 0.1%

※数字は2008年3月20日現在

事には努めて参加しているお蔭だ
と思う。

今年の支部総会は最先端の文化都心、人気の六本木ヒルズ内のホテル「グランドハイアット東京」で開催される。

金蘭会の皆様にもぜひ参加して、アンチエイジングをめざして頂きたい。

◎略歴
昭和30年 大手前高等学校卒業
昭和35年 東京大学経済学部卒業
昭和47年 東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和56年 医療法人仁愛会歯科理事長
平成7年 学校法人 総持学園評議員
平成19年 日本歯科医師会代議員



<http://homepage.mac.com/nrtnkym/temporary/Personal41.html>



危機に瀕するさんご礁を護り育てる

東京海洋大学名誉教授 水産学博士
阿嘉島臨海研究所長

大森 信さん

(昭和31年卒)



北海道大学水産学部卒、米国留学後、東京大学海洋研究所助手、ユネスコ自然科学局企画専門官、東京水産大学教授を経て、2002年より(財)熱帯海洋生態研究振興財団の阿嘉島臨海研究所長。生物海洋学を専攻。山に登り海に潜る自然愛好家。NHKスペシャル「海・青き大自然」と映画「ディープブルー」を総監修した。

さんご礁は熱帯の海の森である。明るい透明な水に潜ると、礁を覆うサンゴと色とりどりの魚たちがすぐに目に入るだろう。いろいろな形のサンゴの枝が成長することで、さんご礁は複雑な立体構造となり、魚たちの産卵場や隠れ家になる。そこは地球上でもっとも多様な生きものが棲む世界であるし、漁業資源を育てる場でもある。アジアの沿岸の漁獲量の4分の1はさんご礁の魚が占める。美しいさんご礁は、また、世界中から観光客を集め、途上国では外貨の大きな収入源となる。さらに礁の硬い地盤が自然の防波堤として津波や高波から人びとを護ってくれる。こうして、一億人を超える人たちがさんご礁の恵みを受けて暮らしている。

その大切なさんご礁が、いま、海の汚染や陸地の開発や乱獲や地球温暖化による白化現象などによって急速に減少している。わずか50年ぐらいの間に世界のさんご礁の3分の1が消滅し、さらに3分の1が危機にさらされているのだ。陸上の森林がそのぐらいの速度で失われたら、人びとは異変に動転するだろうが、見えない海の中からの警鐘にはなかなか気がつかない。陸上での便利な生活を求めて、

私達はあまりにも簡単に海水を汚し、海岸を改変し、魚を獲り過ぎてしまった。沖縄の海でもさんご礁の破壊はとどまるところを知らない。



大切なさんご礁を次の世代にも残したい。失われつつあるさんご礁をどうしたらよいのか。熱帯の国々にかわって、自国にさんご礁を持つ日本の果たすべき役割はもっと大きい筈である。そんな思いで、私たちはサンゴの研究を続け、さんご礁を回復するための技術開発を進めている。これは卵から育てたサンゴの幼生を基盤に着生させて大きくなるまで育て、やがて目的の場所に移植する技術である。

今年は「国際サンゴ礁年」、国際的な協力の下でさまざまな人びとがさんご礁の現状を理解し、連携して保全活動を広めることを目的に設定された。海の森づくりは百年単位の長期計画だが、私たちの技術の進歩は地球と海と、そして人びとを護るための急務である。

Tokyo Kinrankai Member's Topics

新しいものが生まれるとき

ビジュアルプロデューサー
キャラクターデザイナー
季里 さん

(宮垣 季里 昭和55年卒)



学校の先生になるかモノをつくる人になるか…悩んだ末に進学した大阪教育大学(美術専攻)在学中新しい表現の可能性を求めて大阪大学工学部大村皓一氏の元に弟子入り。'83年最初の作品の受賞をきっかけにCGアーティストとしてデビュー。'93年パラッパラッパ/ビブリボン/たまごっちのプチプチおみせっちなどユニークなゲーム制作で知られる七音社設立。

仕事のモットーは「楽しくつくること」、ミッシヨンは「ユーザーを楽しませること」

制作を始めた20代の頃は、自分には才能があり自分の感覚が選ばれし者だけにある特権だと信じたく「ひらめき」という言葉にこだわっていました。モノをつくる多くの人が使う「神サマがおりてくる瞬間」を、私もメッチ近い中ずっと待っていたのです。40代後半となった今となつては、時間内に誰かをうならせたり喜ばせる回答を出せるのはプロとして必要で当たり前のスキルと考えられるようになりました。それは、どのような分野の人も20年間以上の繰り返しなかで身につけている仕事の基本的な能力だと思うのです。たとえば、主婦が洗濯機を回しながらお茶碗を洗い、頭の中では今日の家族のスケジュールと冷蔵庫の中身を考えあわせ献立をたてるようなことです。「寒いわねー、そうそうお父さん今日遅いんだつたわ、レイコちゃんも部活だし。あつ生協さんのちくわ食べちゃわなくっちゃー」というわけで献立の回答は「おでん」みたいな。私たちが新しい発想をする時も似ていて、「ブレスト」という答えのない連想ゲー

ムから始まります。

たとえば、小さいゲーム端末のゲームをつくる場合、あたらしいゲームコンセプトが生み出される行程は、まず、まだ発売になっていないそのゲーム機の模型を手にもちながら、この小さいモニターの中に何が見えるといかない、この小さい棒(スタイラスペン)つてなくしちゃいそうだね、そんな会話をしながらユーザーがゲームを楽しんでいる姿を思い浮かべます。小さいとき何して遊んでた?こんな棒もつてたら人をつつつきたいねー、そういうば歯医者さんつて自分がやられるのは嫌だけどやってみたいねーとか。そんな飛躍した会話をなんども繰り返しながら「お店やさんこっこあそび」「スタイラスでつんつん」「大人のフリして会話」等新しいゲームの輪郭が見え、ヒット作となった「たまごっちのプチプチおみせっちな」がつくりだされました。日常の中にあるコンフリクトや不思議さを増長したり解決したり。どうでもイイコトをオモシロがったり大切に引き上げたり。そんなことを日々繰り返して新しいゲームやデザインが生まれているわけです。

平和の大切さ伝えたい

二神 裕子 (昭和20年4卒)

平成十九年十月十二日、母校大手前の校長先生始め担当の先生方、金蘭会関係や在校生の皆様との多大の御尽力、御好意に依り、大手前高女六十二年目の卒業式と講演会を挙行して下さいました事に深く感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

私は確かに大手前を卒業し、金蘭会々員としてお仲間にも入れて頂いてはいるのですが、卒業証書を持っていない事が、ずっと心にひっかかっておりました。それが頂けると聞き、とても嬉しく、又

講演をするに決ってからの五ヶ月間、打合せの為、毎月懐かしい大手前に横浜から通いました。何十年ぶりで訪れた大手前は、礼儀正しい澁淵とした在校生に満ち溢れ、素晴らしい後輩が育っているのを目にしてとても感激致しました。

今も世界のどこかで戦火は絶えず、戦争で廃墟と化した悲惨な光景が六十二年前の私達の日常にあった事を語り伝え、平和の大切さを考えるきっかけになってくれればこんな嬉しい事はございません。危機迫る戦争体験の講演を聞き、涙する在校生を見て、限りある命

のある間に今回のような機会をお与え下さいました事に深く感謝しております。元気に卒業式に出席した級友との語らいの時間、六十二年の時を越えて、娘時代に帰った様なきときめきでした。

懐かしい金蘭会・東京支部の想い出

井原博之(昭和33年卒)

私の金蘭会東京支部の想い出は、約20年前に始まる。昭和33年卒の同期は、卒業後30年に当る昭和63年が幹事の年であり、当時南極で越冬隊長をしていた渡辺興亜(おきつぐ・同期)博士に電報を

ースや、新聞で大きく報道されました。在校生の振る舞いも礼儀正しく、申し分ないものでした。大手前の卒業生の一人として本当に誇らしい素晴らしい一日となりました。

(昭和50年卒 江田龍咲)



昨年10月12日、母校で大きなイベントがありました。終戦の年、昭和20年は卒業式が行われず、卒業証書を受け取れなかった人たちもいました。4年生卒業の苗代寿子さんからそのお話を聞きになった斎藤良昭校長先生の発案で、62年ぶりの卒業式が母校で行われました。4年生、5年生、高等科だった方々が約100人も参加され、在校時の思い出を語る講演会や当時の卒業証書を復刻して授与した卒業式に在校生も参加しました。これは「大手前高女中学校の62年目の卒業式」として関西では大きく取り上げられ、テレビのニュ

のフロッピーディスクで管理をし、苦勞をしていたが、会社同僚の友井君の母上が大手前出身であることが判り、会社の大型IBMコンピュータで名簿を吸い上げて、新ソフトで再整理をしてくれたことがある。大変便利になり、流石は大手前卒のご子息だと感心をした。故中村名誉会長のお話では、東京支部の豊富な資金は、昭和27年卒の秋吉富夫先輩が節約して貯めてくれたお陰ですとお聞きました。これからも資金を大切にしよう。

ウォーキングの勧め

松井 亮(昭和45年卒)

一昨年55歳の誕生日を記念にと思いウォーキングを始めました。高校時代はサッカーに明け暮れましたが、その後はマラソンや、月

並みながらゴルフ・テニス程度でした。体に良いという単純な理由で始めましたが、ウォーキングを続けるうちに、思いもかけないいろいろなメリットに気づき、今では全く生活の一部になっています。

そのメリットとは①メタボ対策…80キロを超えていた体重は60キロに減少②経済的メリット…高い会費を払ってフィットネスに通う必要はありません。③音楽や語学の習得…ウォーキング中には好きな音楽を聞いたり、語学のCDを聞いたり、一年で新しい語学がマスター出来ます。④脳への効果…何と言ってもこのメリットが最高。人類は二足歩行により脳が発達したと言われていますが、ウォーキング中にいろいろなアイデアが湧き出てきて、仕事にも役立っています。またストレスや種々の精神疾患に効果があるとの研究もあります。⑤思わぬ発見…東京中を歩き回って、途中思いがけない風景や素敵な店を発見したり：：：デジカメも必須です。

現在は主に通勤で日に10キロは歩いていますが、一年で約3500キロになりました。単調なウォーキングですが、歩行計を購入して記録をつけています。最近には五街道ウォークというのがはやっていて、累積距離で仮想五十三次宿場町を回ります。自身の夢は4万キロ(地球一周です)。金蘭会でもぜひウォーキングツアーを！

